

ニホンジカ被害地での 自然再生に向けて

—四万十川森林ふれあい推進センターの取組—

愛媛県と高知県の県境近くに位置する滑床山(通称:三本杭、標高1,226m)周辺(愛媛森林管理署及び四万十森林管理署管内)は、四季を通して登山の人気スポットで、かつてはミヤコザサやオンスツジが群生していました。しかし、平成12年頃から山頂のササ原や周辺の天然林で、灌木類、ササ等の植生が衰退・消失し、さらに衰退・消失の著しい箇所では土壌の流出が見られるようになりました。当時これらの原因は不明でしたが、そのまま放置すれば被害は一層拡大する恐れがありました。

このため、四国森林管理局では、当地が足摺宇和海国立公園の第一種特別地域、鳥獣保護区の特別保護地区、水源かん養保安林・保健保安林に指定されていることなども踏まえ、四万十川森林ふれあい推進センターを中心として植生の衰退・消失の原因等の把握及びこれらに対する具体的方策について検討し、実施してきました。今回は自然再生推進のためのモデル事業として行っている、この滑床山の裸地化に対する取組を紹介します。

■委託調査による原因の解明

- 平成17年度から独立行政法人森林総合研究所四国支所に委託して、滑床山山頂付近で被害状況や被害原因及びニホンジカの生息頭数の調査を実施してきました。その結果、植生の衰退・消失の主な原因はニホンジカによる食害であり、既に表土の流出や天然林の枯損が進むなど極めて深刻な状況にあることがわかりました(写真1)。このため、裸地化に対してはニホンジカ対策を行いながら植生回復に取り組んでいくことが必要とされました。
- ① これまでの検討会においては、特に被害が著しい山頂付近の2か所にシカ防護ネット柵を設置し、原植生であるミヤコザサを移植すること。(18年度)
 - ② 裸地化が進行している黒尊山(国有林側(高知県側)、滑床山山頂北東側)及び同西斜面にもシカ防護ネット柵を設置すること。(20、21、22年度)
 - ③ 雨水による土壌の流出を防止するためには、枯木などを利用した土留めが効果的であること。(22年度)

■「滑床山植生回復検討会」の開催

滑床山の裸地化対策について検討するため、地元関係者、有識者、関係行政機関等の参加により、平成18年度から平成24年度までに計8回の検討会を開催しています。



滑床山(三本杭)山頂(平成19年4月)



シカ防護ネット設置後(「熊のコル」に至る「吊り尾根」)



枯木を活用した土留め(藤ヶ生越(黒尊山))



写真4

滑床山山頂歩道沿いのロープ標示とミヤコザサ(平成24年9月)



写真5

大型囲いワナで捕獲した親子ニホンジカ

- ④ シカの個体数調整が必要であること。(22、24年度)
 - ⑤ 八面山から「熊の科尔」に至る「吊り尾根」の裸地化した箇所にもシカ防護ネット柵を設置すること。(23年度)
- 等が提言されました。

■実際の取組

前述の提言等を踏まえ、次のような取組を行ってきました。

(1)シカ防護ネット柵の設置
裸地化が進行している8か所、2.86haについて平成18年度から平成24年度までにシカ防護ネット柵(延長:2,148m)を設置し、ニホンジカが侵入できないようにしました(写真2)。

(2)ボランティアによるミヤコザサの移植
平成19年3月、ボランティアなど約120名の参加を得て、シカ防護ネット柵で囲んだ2か所に、付近の被害を受けていない箇所掘り取ったミヤコザサをモザイク状(1m四方、237区画)に移植しました。シカ防護ネット柵内では、移植したミヤコザサやカエデ、リョウブ等が順調に生長し、土壌の流出に歯止めをかけたつありま

す。
(3)枯木を活用した土留め
シカ防護ネット柵内において、土壌の流出を防ぐため平成22年3月にムシコ伏せ工(※)を行い、平成23年5月以降は、枯木を活用した土留め(資材は現地調達)を設置しました。特に枯木による土留めは多大な効果を発揮して

います(写真3)。
(4)登山道のロープ標示
シカ防護ネット柵内の登山道にはロープで標示を行い、登山者の方々に滑床山山頂及び「タルミ」に広がりつつあるミヤコザサの根茎の保護にご協力をお願いしています(写真4)。

(5)ニホンジカの捕獲
植生回復に取り組んでいる箇所に接する黒尊山(高知県側)及び目黒山(愛媛県側)において、平成23年度から、囲いワナによるニホンジカの捕獲に取り組み、これまでに36頭を捕獲しています(写真5)。
(6)森林環境教育の場として活用
自然再生に取り組んでいる滑床山周辺は、小・中学生等を対象にした森林環境教育の場として活用され、好評を得ています。

■今後の取組

滑床山周辺がかつてのみどり豊かな植

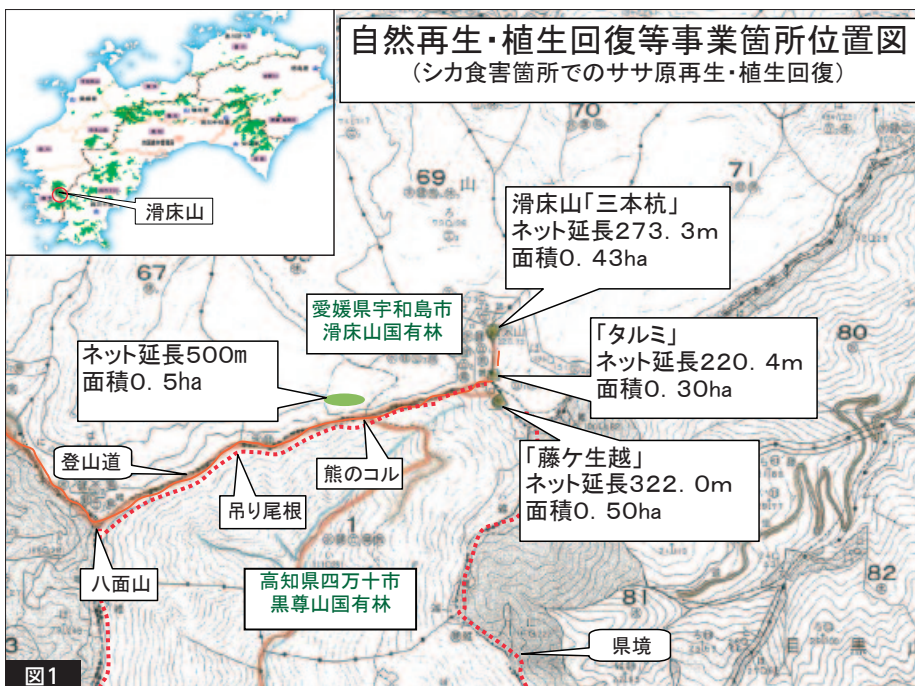


図1 滑床山周辺での主な植生回復事業箇所の位置図

生に蘇るよう、未だに広がりつつあるシカ被害による裸地化を防ぐための防護ネット柵設置やシカ個体数管理に努めるとともに、枯木を活用した土壌流出対策や、移植したミヤコザサ等の保護などについても引き続き取り組んでいくこととしています。